

ワークショップの実施概要

1. 第1回ワークショップ

日時	令和4年10月1日(土) 9:30~12:00
開催場所	南の関うから館1階大広間、2階大広間・南関町中心部(まち歩き)
参加者	一般参加者:20名 事務局:まちづくり課5名、コンサルタント6名、学生インターン1名
ワークショップ内容	1. 挨拶・全体説明 2. 第1部 まち歩き(3チーム)~まちの「宝物」を見つけに行こう!~ 3. 第2部 グループワーク~エリアとうから館の「宝物」を再発見する~ 4. まとめ

2. 第2回ワークショップ

日時	令和4年10月21日(金) 19:00~21:00
開催場所	南の関うから館2階大広間
参加者	一般参加者:29名 事務局:まちづくり課5名、コンサルタント6名
ワークショップ内容	1. 挨拶・全体説明 2. 導入ワーク 「うから館を活用したまちの歩き方」~まちとうから館の活用シーンを考える~ (1) 設問1: 第一回ワークショップのふりかえりに追加等すべきこと (2) 設問2: まちとうから館の活用シーン 3. グループワーク うから館を活用したみんなの“遊び方”~おとなや子どもがうから館でどう遊ぶ(使いこなす)か~ 4. まとめ

■ワークショップ一般参加者の属性と参加状況

出席者	属性			ワークショップ参加状況（●：参加）	
	男女の別	年齢(才)	居住地	第1回	第2回
No. 1	女	67	町内	●	●
No. 2	女	32	町内	●	●
No. 3	女	66	町内	●	●
No. 4	女	20	町内	●	●
No. 5	女	54	町外	●	●
No. 6	女	54	町内	●	●
No. 7	女	42	町内	●	●
No. 8	女	65	町内	●	●
No. 9	女	40	町内	●	●
No. 10	女	62	町内	●	●
No. 11	男	33	町内	●	●
No. 12	男	64	町内	●	●
No. 13	男	40	町内	●	●
No. 14	男	71	町内	●	●
No. 15	男	53	町内	●	●
No. 16	男	42	町内	●	●
No. 17	男	32	町内	●	●
No. 18	男	69	町内	●	●
No. 19	男	49	町内	●	●
No. 20	男	61	町内	●	●
No. 21	女	48	町外	●	
No. 22	男	78	-	●	
No. 23	男	56	-	●	
No. 24	女	72	町内		●
No. 25	女	73	町内		●
No. 26	女	47	町内		●
No. 27	女	75	町内		●
No. 28	男	39	町内		●
No. 29	男	62	-		●
No. 30	男	62	町内		●
No. 31	男	52	町内		●
No. 32	男	45	町外		●

南関町南の関うから館活用基本計画及び基本設計業務委託

第1回ワークショップ 記録

開催日	2022年10月01日(土) 9:30~12:00
場所	南の関うから館1階大広間、2階大広間・南関町中心部(まち歩き)
出席者 (敬称略)	一般公募参加者：別紙の名簿のとおり 事務局：(まちづくり課) 竹崎課長、西山、大塚、大森、永松 (市浦) 高屋、清水、吉水(BS) 大島、玉手、西府
資料	ワークショップの流れ、ビジョン資料、まち歩きマップ(各エリア)

【要旨】

1. 挨拶・全体説明

まちづくり課竹崎課長からの挨拶。

その後、事務局(コンサルタント)より、ワークショップの進め方やまち歩きの視点等について説明を行った。

2. 第1部 まち歩き(3チーム)～まちの「宝物」を見つけに行こう!～

以下の3つのコースに分かれて、まち歩きを行った(約60分)。図1参照。

- ・コース1：旧街道とうから館
- ・コース2：日常生活とうから館
- ・コース3：田園風景とうから館

3

3. 第2部 グループワーク～エリアとうから館の「宝物」を再発見する～

参加者は、まち歩きなどで感じたまちの強み(面白かったこと・可能性を感じたこと)や弱み(課題と感ずること)を書き出した後、グループ内で共有。その後、意見交換を行いながら各チームのまとめを行い、全体に向けて発表を行った。

(1) Aグループの意見等のまとめ 図2参照

(2) Bグループの意見等のまとめ 図3参照

(3) Cグループの意見等のまとめ 図4参照

4. まとめ

事務局(コンサルタント)より、うから館の活用の方向性(ビジョン)について説明の後、ワークショップの総括があった。

以上

図1 まち歩きのリート図

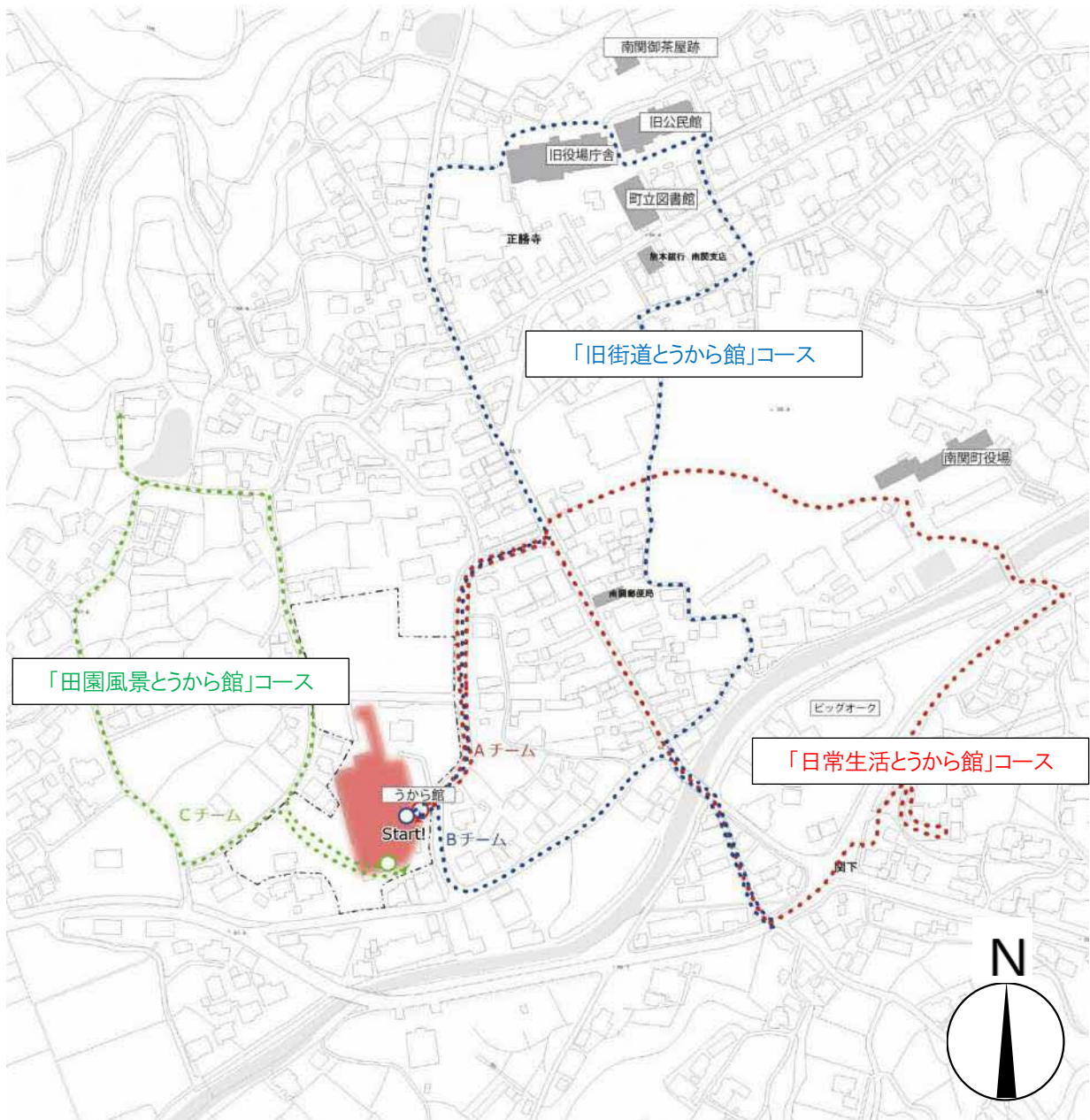


図2 Aチームの発見した「自慢」と「課題」：「日常生活とうから館」コース

*網掛けは複数の参加者の意見（類似意見を含む）

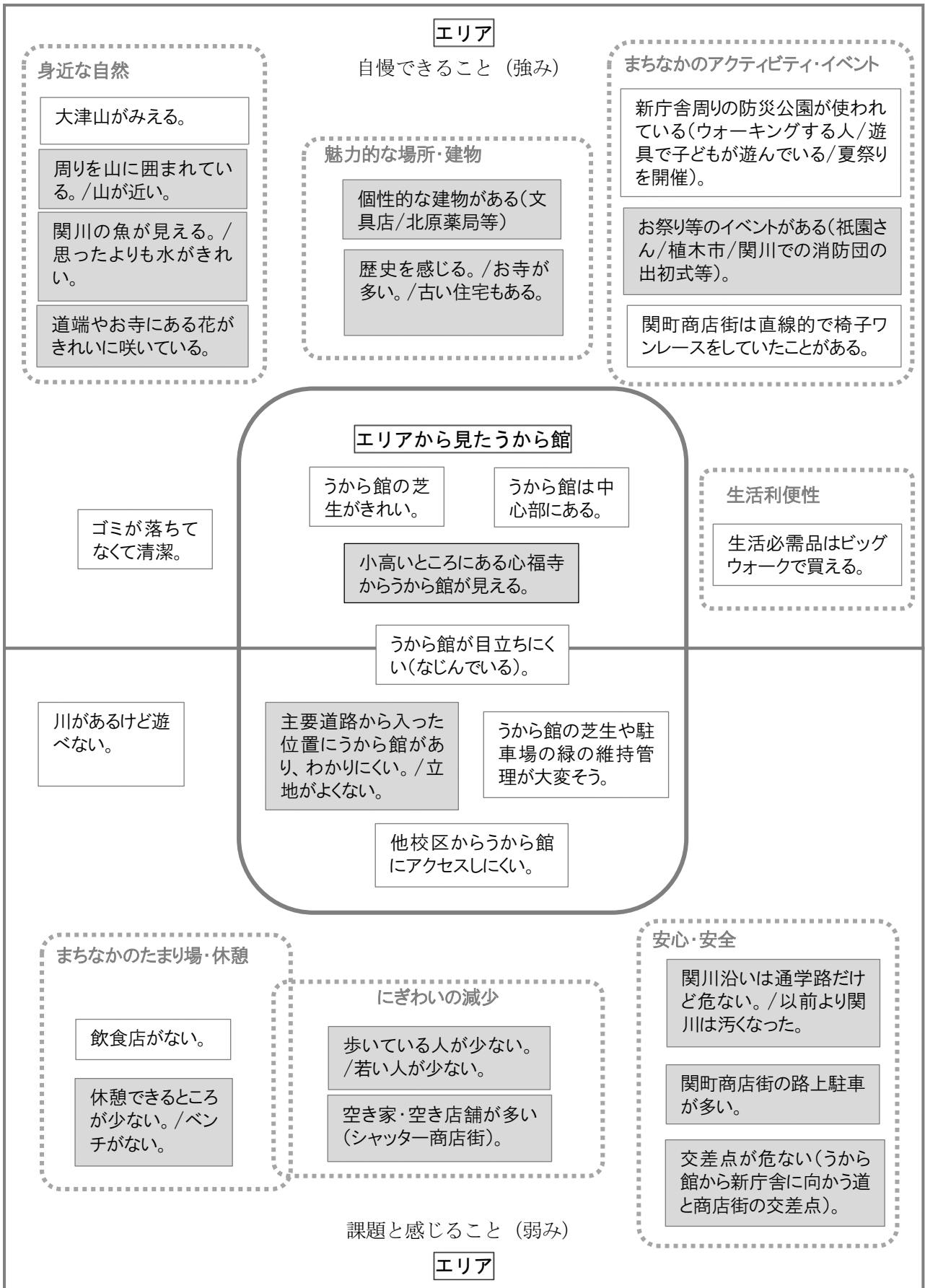


図3 Bチームの発見した「自慢」と「課題」：「旧街道とうから館」コース

*網掛けは複数の参加者の意見（類似意見を含む）

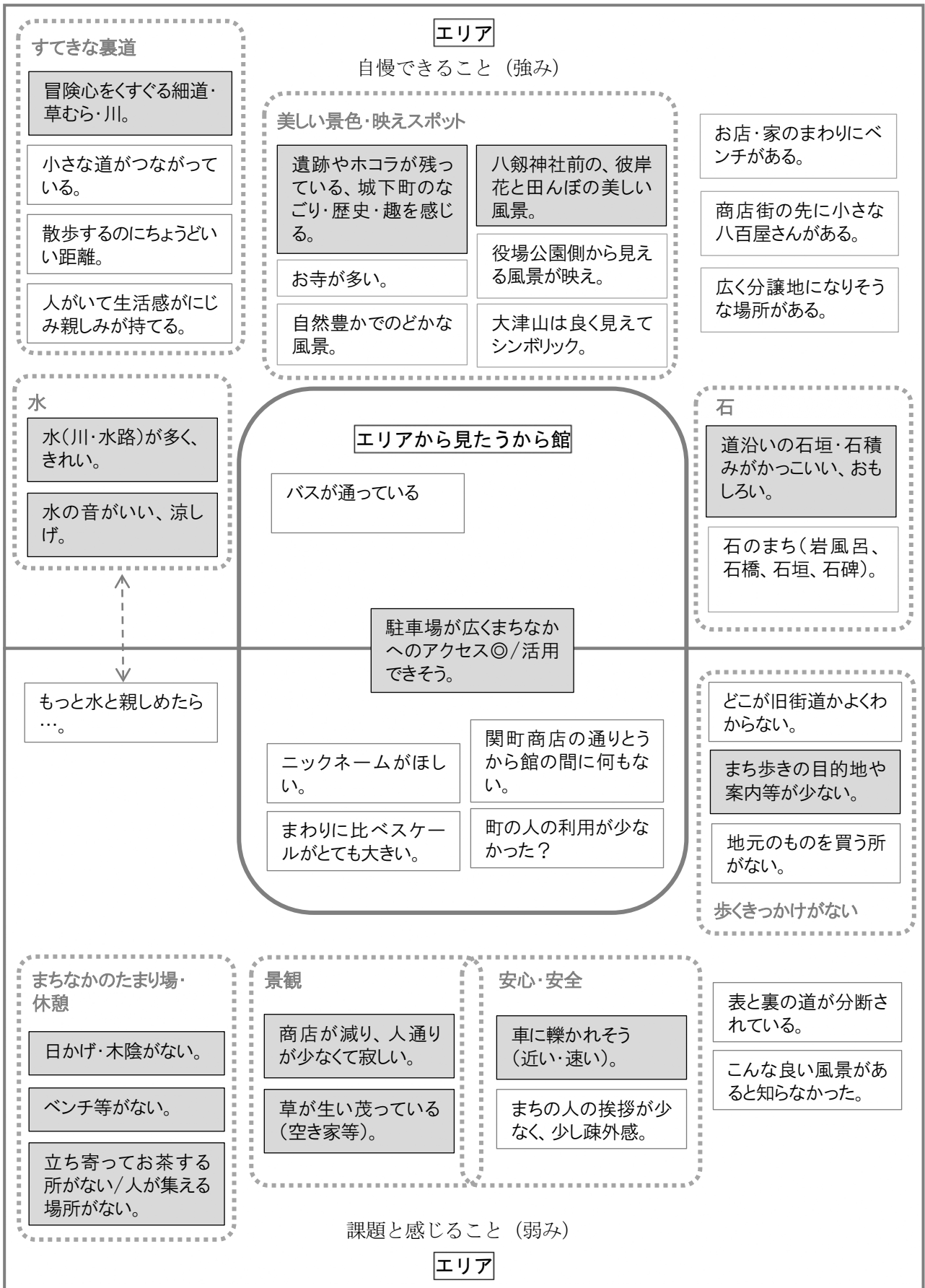
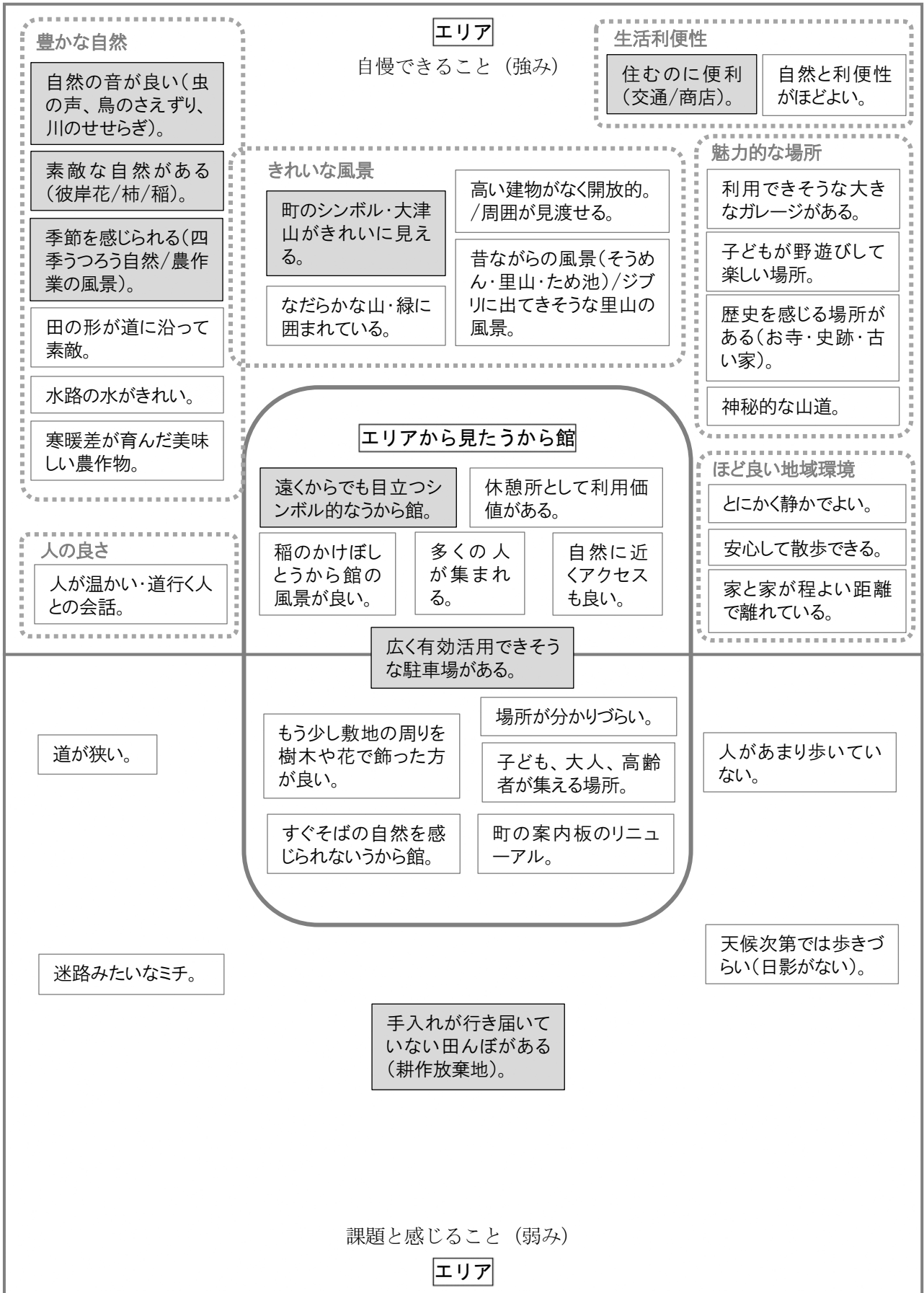


図4 Cチームの発見した「自慢」と「課題」：「田園風景とうから館」コース

*網掛けは複数の参加者の意見（類似意見を含む）



南関町南の関うから館活用基本計画及び基本設計業務委託

第2回ワークショップ 記録

開催日	2022年10月21日(金) 19:00~21:00
場所	南の関うから館 2階大広間
出席者 (敬称略)	一般公募参加者：別紙1の名簿のとおり 事務局：(まちづくり課) 竹崎課長、西山、大塚、大森、永松 (市浦) 高屋、清水、吉水 (BS) 大島、玉手、西府
資料	資料1 (WSの流れ)、資料2 (第1回WSのふりかえり)、資料3 (まちとうから館の活用シーン)、資料4 (ビジョン資料)、ワークシート

【要旨】

1. 挨拶・全体説明

事務局(コンサルタント)より、資料1を用いてワークショップの進め方等を説明した。

2. 導入ワーク

「うから館を活用したまちの歩き方」～まちとうから館の活用シーンを考える～

事務局(コンサルタント)より、第1回ワークショップのふりかえり(資料2)とともに「うから館を活用したまちの歩き方」についての例示(資料3)の説明を行った。

参加者は各チームで議論された内容を振り返ったのち、資料2に追加すべき点や気づき、そして参加者の考える「うから館を活用したまちの歩き方」を各々でワークシートに記述した。

(1) 設問1：第一回ワークショップのふりかえり(資料2)に追加等すべきこと

【エリアの自慢できること(強み)】

・「音楽経験者・音楽に関わる人の多さ」等、「音楽文化の高さ」が複数人から挙げられた。またエリアの雰囲気として「伝統と現代的な風情が調和したいなか感」があり、その中では「広々としていて走りたくなる」「星が綺麗に見える」等と感じられるという意見が寄せられた。

【エリアの課題と感ずること(弱み)】

・「どこでなにをしているか分からない」「人が集まるイベント(がない・少ない)」と人の活動の見えにくさが挙げられた。また商店街の空き店舗についての複数の指摘を受けて、「車の出入りを規制し、特長ある商店が数店あれば歩行者天国ができないか」という意見が寄せられた。

【エリアから見たうから館の課題と感ずること(弱み)】

・遠くからでも目立つ存在にも関わらず、「外観が汚い」ことが課題として挙げられた。

(2) 設問2：まちとうから館の活用シーン

「まちとうから館の活用シーン」については、ワークシートを提出してもらい、事務局でまとめることとした(別紙2)。

当日は有志3名(A-1グループ：岩崎氏、B-2グループ：日高氏、C-2グループ：島崎氏)が全体に向けて発表を行った。

3. グループワーク

うから館を活用したみんなの“遊び方”～おとなや子どもがうから館でどう遊ぶ（使いこなす）か～

事務局（コンサルタント）より、ビジョン資料（資料4）を用いて、うから館の活用方針と活用イメージ案の説明を行った。

参加者は、うから館の空間をどのように活用したいか、自分（や家族）がしたいこと（アクティビティ）やできること（役立てること）ベースで考え付箋に記述したのち、グループ内で共有し意見を整理した。最後に、各グループ3～5分ずつで全体に向けて発表を行った。

(1) A-1 グループ

<p>①参加者からの発表コメント</p>	<p>■あつまる”あそび場”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各々が持つ究極の趣味を楽しめる、突き詰められる場所だと思った。編み物、ハワイアンダンス、異文化交流、バンド、バーチャルゴルフ（次世代の発掘にも）等が挙がった。趣味のほか、「コワーキングスペースでいろんな人と仕事をしたい」人もいた。 ・自宅で作った野菜の持ち寄り販売、友達のハンドメイド作家さんやキッチンカーを集める等がすぐにできそうだと考えた。 ・【できること】として「料理教室」「味噌づくりが教えられる」「お茶が教えられる」等が挙がった。 <p>■ふかめる”あそび場”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本のある空間では「ゆっくりしたい」「自然散策で見つけた花や虫の名前等をすぐに調べたい」という意見が出た。 <p>■つながる”あそび場”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェ空間で「おにぎりとお味噌汁の店がしたい」「副業でコーヒー屋さんを開きたい」「揚げ巻き寿司をふるまえる」という意見が出た。 ・「ハンモック・薪ストーブを置いてゆっくり休みたい」「芝生の上で夜に星を見上げたい」「仕事の合間に横になってゆっくりしたい」等の休むイメージが挙がった。 ・屋外の広場では、「定期的なふれあい動物園のようなものがしたい」という意見があった。 <p>■全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が子供を見守り、子供は高齢者と遊べるような交流を計画し、コミュニティの場所として使いたいと考えた。町内からうから館へのバス直行便があると良いと考えた。 ・【できること】として「みんなで芝生の草刈りができる」「子育てや就労の相談にのれる」「そうした情報をインスタグラム等を利用してまとめられそう」が挙がった。
<p>②事務局からの補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の外、利便性に着目して「複数の金融機関の通帳記入がしたい」という意見が出たのが特徴的だった。

(2) A-2 グループ

<p>①参加者からの発表コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の料理を学びたい—教えることができる、のように、ニーズとシーズの合致があることが分かった。そうした活動にうから館の設備を利用できたら良い。 ・視点を広げ、町にいながら高度な技術体験や、世界中の情報知識を知ることができる拠点にしたい。 ・日常的に多世代が集まり色々な活動ができる場所であるからこそ、有事の際の防災拠点としてもうまく機能する。簡単な片付けや組み換えだけで、避難者のプライバシーが守れるような作り方・機能を盛り込めば、日常・非日常で活躍する場になれるのではないか。 ・秩序はありつつ、様々なことがカオスに起こるような拠点になることを夢見ている。
<p>②事務局からの補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食やスポーツを通じた多世代交流や、バリアフリーな読書体験等、様々な人の交流の在り方に関する意見が出された一方、ここでデートがしたいという意見もあった。

(3) B-1 グループ

<p>①参加者からの発表コメント</p>	<p>■つながる”あそび場”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外では、「芝生の広場でバーベキューをしたい」「自然体験をしたい」「小さい子供が安全に外遊びできたらいい」という意見が出た。 ・カフェで休みたいという意見が複数あり、「犬と散歩した後に犬と一緒に」「散歩のあとに立ち寄って」「子供を遊ばせながら」といった場面が挙げられた。 ・テラスに面する広い空間では、「ステージで文化協会等の発表をしたい／見たい」「日常的に、”ゆずります ゆずってください”やベットの譲渡等の町民同士の情報交換がしたい」という意見が出た。 <p>■ふかめる”あそび場”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【できること】として「読み聞かせ」「放課後に子供たちの自主学習を手伝う」があり、これらを通じた世代間交流ができると考えた。 ・また、「飲み物などを持ち込んで静かに読書をしたい」「本棚の中や小上がりに寝っ転がって本を読みたい」等、リラックスした時間を過ごすイメージも挙げられた。 <p>■あつまる”あそび場”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「DVD を持ち込み、貸し切りのシアタールームで映画を見たい」「調理の研修をしたい」「バンドの演奏がしたい」「大学生等の若者（外から来た人）が発表できたらいいのでは」等が挙げられた。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個室や静かな空間で、健全な遊びとして「スポーツマージャンがしたい／教えられる」という方がいた。 ・歴史関係のまち歩きガイドができます・やってみたい—参加してみたい でニ
----------------------	---

	ーズとシーズが合致した。
②事務局からの補足	・屋外での子供とのアクティビティとして、美化作業のお手伝いができる方や木登りを教えられる方がいた。また、帰省した家族を連れてきたいような場所にしたいという思いが寄せられた。

(4) B-2 グループ

①参加者からの発表コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは子供が（一日中）安心して過ごせる場所にしたい。そうすれば、子供連れの母親を始めとして、人が集まりやすい場所になるだろう。 ・親が居場所としてカフェを利用したり、食堂で子供だけでも安心して安価に食事ができたり、大人が夜に呑んだりできたら等と、飲食に関する意見が多く出た。 ・また、サークル活動的なもの（バンド活動・DIY・陶芸等）の拠点になると良い。 ・うから館全体としては、基本的に自由にやりたい場所でやりたいことができる場所になるのが良いと思う。ルールで縛るのではなく互いが気を配り合って使うようにし、誰もが気軽に「居れる」空間にしたい。
②事務局からの補足	・衣類修理・生け花教室・話し相手等、自分のスキルを提供して主役になれる場所である、というまとめがされていた。また、はっきりと目的のある利用だけでなく、「昼寝」「ただ座って休む」等も受け入れる場所というイメージも出された。

(5) C-1 グループ

①参加者からの発表コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「本を読みたい」「ゆっくりしたい」「おいしいコーヒーを飲みたい」等が共通意見として多く、皆さんくつろぎたいことが分かった。一方、リモートワークしたいとの意見もあった。 ・食事系では、「定食が食べたい」「気の合う友人を誘って来て、コーヒー等を楽しみたい」があった。 ・ほかに、「大きいスクリーンで映画を楽しみたい」や、屋外の芝生でやりたいこととして「空を見上げたい」「子供たちと遊びたい」「そうめん流しやバーベキューがしたい」等があった。このように子供たちと一緒に遊ぶイメージが集まった。 ・【できること】として「本の読み聞かせができる」「(文化的な)料理教室等ができる」が挙げられた。 ・南関町は昔から音楽の文化が盛んな町であり、その活動の火を消したくない。小ホールのような空間で生の音楽が演奏したい・聞きたい(小さなコンサート)ので、お風呂場の空間がその用途に活用できるのではないか。
②事務局からの補足	・子供と一緒に活動するイメージが多く集まったほか、子供に対し何か提供できるスキルを持つ方も複数人いた。また音楽活動については、演奏できるだけでなく、合唱の練習指導やコンサート企画も自らできるという方がいた。

(6) C-2 グループ

①参加者からの発表コメント	<ul style="list-style-type: none">・「コーヒーを飲みながら友達とゆっくりしゃべりたい」「子供を預けておき、迎えに行ったときに子供食堂で一緒にご飯を食べたい」「南関揚げや南関そうめんを利用した料理教室がしたい」等、食べ物を活かした空間でやりたいことのイメージが多く挙がった。・イベント（町外出店者を呼ぶ）や月1マルシェがしたい—地域おこし協力隊のネットワークで外から人を集められる でニーズとシーズが合致した。・多世代が参加可能な場として「ゲーム大会（eゲーム）等を開きたい」「トレーニングジムで鍛えた後、サウナに入りたい」「孫と一緒に遊びたい（木育等も）」といった意見が出た。若者の意見を聞く場や、互いに話したりする機会になるほか、高齢者の健康維持にもなると考えた。・屋外では、「ドッグランやうから館のまわりで犬を散歩させながら人との会話を楽しみたい」や、他校区等からも子供が移動して来られるように「子供バス停として利用してみたい」との意見が出た。・【できること】として元地域おこし協力隊のスキルを利用し、「移住・定住者の相談の窓口対応ができる」が挙がった。
②事務局からの補足	<ul style="list-style-type: none">・本のある空間では、「町民のオススメコーナー」「自作紙芝居を子供たちに見せたい」「本・絵本を持ち寄り物々交換会を開く」といった主体的なアクティビティのアイデアが多く出された。

4. まとめ

まちづくり課大森氏より、ワークショップの総括と挨拶があった。

以上

別紙2：参加者から提案のあった「まちとうから館の活用シーン」（代表例）

	タイトル（テーマ）※未記入の場合は空欄	主役	活用シーン
1	うから館で子育てリフレッシュタイムを	読み聞かせができる子育て経験者のAさん（68才）	南関町図書館へ行って、本を借りて来てうから館子育て支援センター（移動教室）で、本の読み聞かせをしたり、子育ての経験者として支援センターに来ている若い母親の相談を受けたり、一時預かりをして、母親の負担を軽減させ、リフレッシュタイムとして、うから館のカフェでコーヒー・ケーキでゆっくり過ごしてもらおう。
2	わが家の集合場所	父、母、子①、子②、子③ うから館から徒歩10分圏内に自宅あり 父の職場も近い、母はパート、子どもは小学生	子①～③は、学校が終わって、うから館へ歩いていく 宿題や読書、室内遊び場で夕方まで過ごす 母は、ビッグオークや商店街で夕飯のお買い物。 買い物が終わったら、うから館のカフェで夕飯作りの一服 父は、仕事が終わったらうから館の室内ゴルフ場（バーチャル）でちょっと練習 家族がうから館にそろったら、徒歩で自宅へ帰る 子どもたちが遊びたりなかったら、防災広場へ
3	離れていても感じる"ふるさと南関。	J(ジェームズ)さん(男性/32才) オーストラリアから来た外国人 好きなことは「ラーメントーク」を同世代とすること スマホで撮ったうまかつちゃんと大津山の写真は宝物	焼き物の勉強で6年前に南関町を訪れたJさんは、今は岐阜に住んでいます。さみしい夜にはスマホアプリ"NANKAN"を使って南関時代の友だちと情報を交流している。サーバーにアクセスすれば町のリアルな現状を仮想体験。ソーシャルで体験し楽しめている。うから館を通じ離れていても南関人。 (町を) 出れば情報は距離をカバーする。
4	子育てファミリーの休日の楽しみ	Rさん(30才/専業主婦) 女性+会社員の主人(35才) + 3才, 5才の2人の子ども	休日のお天気の日、大津山公園で子ども達と散歩したり遊具で遊んでお昼前にうから館に移動 土日祝日限定のうから館のチャレンジショップ（1～3カ月毎に店が出される。2,3種の店が出されているが、飲食関係が多い）をのぞく。そこで昼食を購入し、イートスペースで、食べる。面白い雑貨店などもあり、掘出し物があつたり、時間を楽しめる。
5		犬と2人ぐらしのセミリタイアした男40代	たまには広い芝草遊びをしようとして月ようの午後犬をつれて防災広場をさんぽ。 帰りにオープンカフェ（犬づれも立ちより可能な）で休んで犬のメニュー（ジビエ）もたべさせてゆっくりとした日をすごす。
6		男性75才、関町在住、75才でボランティア活動を卒業	うから館にあるマージャン室でマージャンクラブの仲間とスポーツマージャンを楽しむ。 夕方になるとうから館下校してきた児童の勉強をみたりして交流 夜は、近所の友だちと居酒屋へ 復活した家族風呂(沸かし湯)をたまに楽しんでいる
7	子育てはのんびりと	(乳幼児とパパ・ママ) 20年前の私（が欲しかったもの）	1.平日、朝の家事をすませ、「さあ、子どもとどう過ごす?」「そうだ! うから館に行こう」 2.まずは、車を停めて、ベビーカーを押して、水音の道をお散歩。木かげで休けいタイム。 3.うから館に戻ったら、絵本のコーナーで子どもと一緒に読書 4.そこへ友人も来たので、子ども同士遊んでいる間にママ(パパ)達は目の届く場所のカフェコーナーへ。 5.ずいぶんストレス解消できたので家事も育児もがんばるぞ。 夕方になると小中学生が宿題をしに来て、その時間にもぎわって、楽しい(晩ごはんも食べるといいな)
8	音楽と歩く	30代男性Eさん観光 音楽鑑賞が趣味と歴史が好き	Eさんは、うから館で開催される音楽イベントに興味を持って観光にくる開催が午後からなのでうから館に車を置いて、御茶屋跡で肥後琵琶体験を受ける。お抹茶と甘味でのおもてなしを受け、うから館の音楽イベントを楽しむ。
9		Aさん（男性35才）、奥さんと2人の子どもの4人暮らし宮尾居住 アウトドアと食べ物（おいしい物）が大好き	Aさんは、夏休みの宿題がなかなか進まない2人のこどもと奥さんを車に乗せて、広い駐車場があるうから館の図書館に行くことを提案。駐車場についたら、友人家族とばったり会った。 うから館にあるたくさん本を参考に夏休みの課題に取り組み無事終了。次にAさんの趣味であるつりをしたいところを見せるため、徒歩でうから館近くのつり堀にみんなを連れていった。友人家族も参加して急きょつり大会に発展。 つりの後は、郷土料理店で南関あげ井と焼肉ラーメンを食べた。お腹いっぱいになって満足していたら奥さんと娘がパフェが食べたい!と言ったため、何百種類もパフェがあるお店へ。歩けないほど、お腹いっぱいになった4人でまちをブラブラして帰った。
10	体力向上を目指す若者のトレーニングコースと、うから館のトレーニング施設	25才 野球青年	アップダウンある正勝寺&御茶屋跡 →関川沿いを数周走って、うから館で「トレーニングジム」&「サウナ」 →最後に、近くの居酒屋でビールと食事をして帰る（又は、馬刺しを持ち帰って家で食べる）